

# JAPIC NEWS

Japan Pharmaceutical Information Center

July

2025

No. 494

7

## Contents

### ■ 巻頭言

#### 関西医薬品協会の活動と 関薬協ビジョン

関西医薬品協会 理事長  
京都府立医科大学大学院医学研究科 特任教授 林 憲一 ..... 23

### ■ 最近の話題

腫瘍神経科学の理解の重要性：  
神経からがん治療を考える時代の到来  
星薬科大学 薬理学研究室 教授 成田 年 ..... 46

### ■ インフォメーション

7月末発売! ..... 7

JAPIC「医療用・一般用医薬品集  
インストール版 2025年7月版」

JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2025年7月版」

医薬品集発刊! ..... 8

JAPIC「医療用医薬品集 2026」  
CD-ROM付 9月初旬発刊

JAPIC「一般用医薬品集 2026」  
9月初旬発刊

JAPIC「医療用医薬品集  
薬剤識別コード一覧2026」8月発刊

### ■ トピックス

日本薬学図書館協議会の2025年度定時総会  
及び創立記念式典にて ..... 9

令和7年度 学会等 出展について ..... 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に  
関する規制措置情報よりー(抜粋) ..... 10

■ 図書館だより No.420 ..... 11

■ 情報提供一覧 ..... 11

**JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

# 関西医薬品協会の活動と 関薬協ビジョン



関西医薬品協会 理事長  
京都市立医科大学大学院医学研究科 特任教授

林 憲一 Yoshikazu Hayashi

関西医薬品協会と聞いて筆者がまず思い浮かべるのは会報である。昔から変わらぬデザインの表紙(図1)を皆様も一度は目にされたことがあるのではなかろうか。筆者にとっては、厚労省やPMDA在籍時から、他部署の幹部やPMDA職員の方々が当協会の講演会で話された内容がスライドとともに掲載された会報は貴重な情報源であったが、会報には講演録に加え、当協会の様々な活動についてもこと細かに掲載しており、一読いただければおわりの通り、実に多彩な活動を行っている。厚労省・PMDAを退職後、4年近く勤めた京都市立医科大学から当協会に移り、2024年5月末に理事長に就任してちょうど1年になるが、そのような折、JAPIC NEWSの巻頭言執筆の依頼をいただいたことから、この1年の経験を通じて理解を深めた協会活動の概要について説明したい。

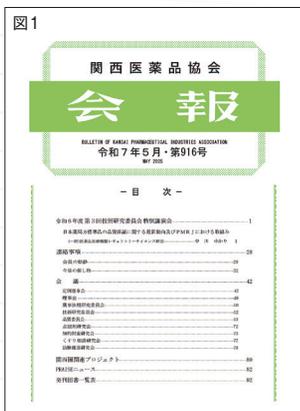
健康長寿社会の実現に貢献することを目的として、日本製薬団体連合会の傘下で活動を行っている。

当協会では、会長及び理事会とその下の会務審議会、研究開発推進会議(産学官による研究開発推進策を一元的に把握・検討するための理事会直轄の機関)、4委員会・6研究会を事務局がサポートする形で、業界が直面する諸課題に取り組んでいる。委員会・研究会には、①薬事法規研究委員会、②技術研究委員会、③品質委員会、④国際ビジネス委員会、⑤点眼剤研究会、⑥知的財産研究会、⑦くすり相談研究会、⑧医薬品安全性研究会、⑨教育研修研究会、⑩治験推進研究会があり、会員会社であれば、希望する委員会・研究会に加入して活動することができる。

一方、事務局の活動は、(1)行政通知等の会員会社への情報提供サービスや各種講演会・説明会等の開催と(2)関西圏における各種プロジェクトへの協力・支援が主なものであり、厚労省・PMDA、大阪府をはじめとする関西の行政当局などと連携しながら、医薬品関連産業に関する諸法令、諸情報を収集、調査研究、分析整理し、その成果を講習会、会報、協会ホームページやPRAISE-NET(後述)等を通じて普及し、会員の啓発と意識向上に努めるとともに、国や地方自治体等に対し医薬品関連産業に関する様々な提案を行っている。

平成29(2017)年9月には、関薬協ビジョン2025を策定し、これを実現するための中期事業計画(前期:2020年度まで、後期:2025年度まで)に基づき、「関西の強みを活かして日本の医薬品関連産業をリードする」地域団体となるべく、「提案力」、「イノベーション」、「グローバル化」、「魅力ある協会」、「社会からの信頼」+PRAISE-NETの5+1の柱に沿って活動を進めている(図2)。以下、そのうちの主なものを紹介したい。

「提案力」:行政当局への政策提言とその実現に向けた協会機能の強化、会員会社のニーズ・意見のタイムリーな収集、委員会・研究会による東西合同会議と行政



当協会は、昭和23(1948)年に大阪医薬品協会として設立され、平成30(2018)年1月1日に関西医薬品協会(関薬協)に名称変更した医薬品関連の業界団体である。関西発祥の大手から関西に限らず中小までの医薬品製造販売業者、医薬品製造業者及びCMO/CDMOやCROなど約330社から構成されている。関西の強みを活かして会員をはじめ様々なステークホルダーと連携し、相互理解と啓発によって会員共通の利益を増進し、医薬品関連産業の健全な発展を通じて

当局による講演会等を実施。製薬企業の活動に直結する法令・通知等の各種規制・運用について、会員会社が的確に対応できるように情報収集と検討を行い、周知徹底を図っている。また、昨今の医薬品の製造・品質に係る不適正事案の防止や安定供給確保、薬機法改正などに関する日薬連の検討にも積極的に加わり、日薬連を通じて当局に必要な要望・提言を行っている。

【イノベーション】: 関西の強みを活かしたイノベーション促進の取り組みとして、研究開発推進会議による産学連携の検討や、バイオコミュニティ関西(BiocK)、千里ライフサイエンス振興財団、京都大学等のアカデミア、大阪商工会議所、LINK-J等と協力してアカデミアのシーズとのマッチングや関西のライフサイエンス分野のプロジェクト支援に努めている。その一環としてそれぞれ年4回のペースで無料開催している次世代モダリティセミナー(抗体医薬、核酸医薬、遺伝子治療、再生・細胞医療等の最新動向を紹介)や、デジタルヘルスセミナー(ビッグデータ、AI、ICT、IoT等を利用した治療や未病・予防・予後への展開等の最新情報を紹介)は、多い回にはオンラインを含め1,200名超の方が参加登録するなど、当協会が関与するセミナーの中でもとりわけ好評を博している。

【グローバル化】: 関係各国の団体、大使館・在大阪総領事館、JETRO、大阪商工会議所、日薬連国際委員会等とも連携して会員会社の海外への事業展開を支援するほか、グローバル人材等の育成・確保・定着に関する講習会や英語版ホームページによる海外への情報発信、アジア諸国を中心とした規制当局・制度、ビジネス・投資環境等の情報共有を進めている。

【魅力ある協会】: 会員会社の様々なニーズや課題を把握し、各社が薬機法等に的確に対応できるように、PRAISE-NETや協会ホームページ、昨年新たに立ち上げた関薬協YouTubeチャンネル等を通じた行政通知等の迅速・的確な情報提供と、そのときどきの課題に対応した講演会・研修会の企画・提供を行っている。

【社会からの信頼】: 国民の健康ニーズに合った情報提供や啓発活動等を強化するとともに、会員会社のコンプライアンス強化を目的とした講演会の開催や関連情報の発信、日薬連を通じた医薬品の安定供給確保への協力、緊急時の医薬品等の供給支援といったことに取り組んでいる。中でも昨今の度重なる医薬品製造等に係る不適正事案に鑑み、会員会社の継続的なコンプライアンス活動への取り組みには力を入れているほか、女性活躍推進フォーラムや障がい者雇用促進セミナー、叙勲・褒章・大臣表彰受章祝賀会、道修町まちづくり協議会などを通じた社会貢献活動にも取り組んでいる。

【PRAISE-NET】: 当協会のDY-NETを起源とし、現在は日薬連、関薬協、東薬工、製薬協4団体の共同事業となっているPRAISE-NETは、インターネットを通

じて当協会会員約12,000人とつながり、行政通知や関連情報を提供する情報ネットワークである。当協会は、その運用主体としてシステムの安定稼働とともに利便性向上と機能強化にも努めており、昨年度各団体に対して行った改善要望の調査結果に基づき、第5期PRAISE-NETシステムの構築に向けて現在改修計画を立案中である。

2025年度は現ビジョンの最終年度であり、中期事業計画(前・後期)全体を通じた達成状況の取りまとめとその評価を行う予定である。後継となる新ビジョンでは、その結果も踏まえ、現行の5つの柱+PRAISE-NETは、時代を超えて将来の方向性を示すキーワードとして維持しつつも、希少疾病用医薬品や小児用医薬品等のドラッグ・ロス、安定供給確保、COVID-19等のパンデミックに対する治療薬開発でわが国が遅れをとったことなど、現ビジョンの策定時には顕在化していなかった諸課題や、新規モダリティ、AI創薬等の革新的技術が次々と登場し、変化のスピードも加速するなど、以前とは前提が大きく変化していることから、それらも見据えた上で、時代の要請に即した協会の将来像を描く必要があると考えている。



最後に、当協会に対してこれまでご支援・ご協力を賜った皆様や、関薬協の歴史を築いてこられた諸先輩方に改めて感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導・ご鞭撻をお願いして稿を終えたいと思う。

## 腫瘍神経科学の理解の重要性： 神経からがん治療を考える時代の到来

星薬科大学 薬理学研究室 教授  
成田 年 Minoru Narita



### はじめに

「神経科学」と「腫瘍学」は、長年それぞれ独立した学問分野として大きな発展を遂げてきた領域である一方、両領域間のクロストークはあまり積極的に行われてこなかった。しかしながら、2020年前後から、がん細胞と各種神経系との直接的および間接的な相互作用が、想像以上に、腫瘍の増殖や転移に大きな影響を及ぼすことが明らかになってきた。こうした背景から、腫瘍神経科学(Cancer Neuroscience)という新たな学問領域が誕生し、ここ数年で凄まじいまでに発展を続けている。この学問領域のさらなる発展と理解は、がんの病態解明を深め、神経系と腫瘍免疫系の相互作用を中心に革新的ながん治療法の開発を促進する原動力となる。

### 1. 神経系と免疫系の相互作用

近年、多数の研究により、神経細胞と免疫細胞の間では、有機的な“情報交換”が行われていることが明らかとなり、特に、交感神経や知覚(感覚)神経は、多くの免疫器官に神経支配を及ぼしている。

腫瘍細胞を取り囲む局所環境である腫瘍微小環境は、がん細胞ばかりではなく、免疫細胞や神経細胞などを含む様々な非がん細胞からなる複雑な形態を呈している。こうした腫瘍微小環境におけるがん細胞と周辺細胞との相互作用は、がん細胞の増殖や転移において重要な役割を果たしている。最近の研究結果より、腫瘍の進展過程では、腫瘍微小環境内に取り込まれた神経細胞が“エフェクター免疫細胞”の不活性化や“抑制性免疫細胞”の活性化を調節することで、「がんの共謀者」として機能することが明らかになってきている。このようなことから、腫瘍微小環境内における神経系の活性化の制御が、がん治療における新たなアプローチとなる可能性が示唆されている。

### 2. 末梢神経系と免疫細胞・がん細胞との相互作用

末梢神経である自律神経は、交感神経と副交感神経に大別される。交感神経によって分泌される

最も一般的な神経伝達物質であるノルアドレナリン(NA)は腫瘍免疫に大きな影響を与える。がん細胞や免疫細胞などはアドレナリン受容体(AR)を持ち、がん免疫機構の一部を担う。腫瘍微小環境において交感神経の過活動や $\beta$ -ARの活性化があると、抑制性免疫細胞によるエフェクターT細胞(エフェクター免疫細胞)の抑制が増強されるなど、がん病態の悪化が予想されている。さらには $\beta$ -AR拮抗薬を併用することががん免疫療法の成果を向上させる可能性があることが示されている。これに対して、副交感神経の活性化は、含有される神経伝達物質であるアセチルコリン(ACh)を介して、免疫細胞などにあるACh受容体を活性化させ、抗腫瘍効果を示す可能性が示されている。しかしながら、交感神経や副交感神経のがん病態やがん免疫における関与、役割に関しては逆説もあり、がんの種類やがん病態の進行過程などを考慮したがん種別およびがん病態時間軸でのさらなる解析、調査が必要であると考えられる。

一方、感覚(知覚)神経は、免疫および炎症応答をいち早く感知し、調節することが次第に明らかになってきている。知覚神経は、侵害・感覚シグナルを脊髄や脳に伝達するばかりではなく、末梢末端において軸索反射により神経ペプチドや栄養因子の放出を誘導する。こうして知覚神経から遊離した分子は、末梢組織や様々な細胞に影響を与えるが、“免疫応答”に対しては二面性を示すことが明らかになっており、免疫細胞の活性化を仲介したり、局所での炎症・感染を改善する一方、多くのがん病態下においてはがんの進行を促進し、転移および血管新生を促進するなど、多様な効果を及ぼすことが報告されている。

主として知覚神経を介した“がんの痛み”は、腫瘍組織が骨、神経あるいは体内の他の臓器を圧迫することによって引き起こされるだけでなく、がん治療としての手術、放射線療法、化学療法などによっても引き起こされる。最近の臨床研究により、がん病態時に起こる痛みの放置あるいは我慢は、がん病態を悪化させる

こと、これとは対照的に痛みの緩和によっては、生命予後が延長することが明らかになってきており、こうしたメカニズムの解明に関して様々な解析が行われるようになってきている。知覚神経刺激ががん増殖を抑制するとの逆説的な報告もあるものの、最近の分子レベルでの研究をまとめていくと、知覚神経の過活動を伴った痛み刺激が、腫瘍微小環境においてがん病態を悪化させる一因になり得るという学説に対して科学的なコンセンサスが得られてきていると思われる。

我々の研究グループでは、国立がん研究センター研究所や星薬科大学において、がん病態下における疼痛緩和の科学的、医療学的意義について解析を重ねてきた。その結果、我々は、がん細胞は知覚神経反射をうまく利用して、腫瘍微小環境を整え、腫瘍の進行、転移、免疫逃避などを誘導するため、痛みをコントロールするばかりではなく、痛みと認識する前段階から知覚神経反射を適切にコントロールすることが望ましいという結論に至っている。こうした研究の成果により、“がん性疼痛”は、がん病態の悪化の大きなリスク因子の一つとして捉えられるようになってきていることから、“緩和医療”を施すことは、がん治療の一貫として欠かせないことが世界的に認識され始めている。同時に、知覚神経とがん細胞との相互作用の理解は、がん治療の新たなアプローチを開発する上で大変重要であると確信する。

### 3. 中枢(脳)神経系とがん病態

中枢神経系(CNS)には、NA、ACh、 $\gamma$ -アミノ酪酸(GABA)、セロトニン(5-HT)、ドパミン(DA)、ヒスタミン(HA)、神経ペプチド、神経栄養因子、神経代謝物などの多くの分子が含有されており、これらの分子の多くは、脳や脊髄内の神経活動を制御するばかりではなく、末梢器官への連絡路としての求心性および遠心性の神経伝達を修飾し、腫瘍進行に多様な影響を与える。がん病態下では、求心性神経の応答変化やがん由来液性因子などの侵入により、脳内炎症が誘引され、脳内神経の異常応答が惹起されると考えられている。こうした反応は“ストレス脳”や“うつ病脳”を容易に創り上げ、視床下部-下垂体-副腎軸や、遠心性自律神経の制御応答を変化させ、全身免疫や腫瘍微小環境内で腫瘍細胞の挙動に影響を与える。すなわち、がん病態下では、ストレス関連神経系の異常応答が引き起こり、それが最終的な引き金になってがん病態の悪化に拍車をかけてしまうようである。がん病態における精神活動の脆弱性や破綻は、こうした腫瘍進展や転移に伴った脳内変化であり、個々の意識によって必ずしも自制できるものではないということも、我々は理解しなければならない。

### 4. 神経過興奮とがんの細胞変容:神経系によるがんとの「マリグナントな関係」

腫瘍神経科学の発展によって明らかにされてきた“がん病態像”において、最も注目すべき事実は、神経系とがん細胞の相互連関によって腫瘍が進行する「マリグナントな関係」が形成され得るという点である。がん細胞は神経を利用して、必要な栄養やシグナルを供給するだけでなく、神経の過興奮を引き起こす。一方、活性化神経はがん細胞の増殖や転移を促進し、腫瘍微小環境を「がんに優しい環境」へと導いてしまう。こうしたがん病態下での神経の過興奮は、一過性のものではなく、神経細胞自身を形質変容させてしまうことも次第に明らかになってきている。こうした変容神経細胞は、多機能性を有し、がん細胞にあらたな栄養分を供給することができる、いわゆる“がん依存性・協働性の神経細胞”となっていく。がん細胞は他個体から侵入してきた単純な異物ではない。故に、宿主個体自身のあらゆる細胞の特性を知り尽くしているとも考えられるため、がん細胞は、このような私たちが今まで想像もしなかったようなイベントを引き起こすのかもしれない。

### 結論

近年の腫瘍神経科学の進展により、がん病態における神経の役割が次第に明らかになってきている。神経系は、がん細胞の進行を支えるだけでなく、腫瘍の成長や転移を加速させる重要な「共謀者」として機能する可能性が高い。こうした背景から、次世代のがん治療には、神経系をターゲットにした新たなアプローチが求められ、神経ネットワークとがん細胞の相互作用を制御することで、がん治療効果が向上し、患者の生活の質の向上が可能となる。このように、発展を続ける“腫瘍神経科学”の理解は、がん治療の新たなフロンティアを開いていくと考えられる。

#### 主要な参考文献:

The neuroscience of cancer (review), Mancusi and Monje, *Nature*, 618, 467-479, 2023

Cancer neuroscience: State of the field, emerging directions (review), Winkler et al., *Cell*, 186, 1689-1707, 2023

Elucidation of the mechanisms underlying tumor aggravation by the activation of stress-related neurons in the paraventricular nucleus of the hypothalamus. Yoshida et al., *Mol Brain*, 16, 18, 2023

Cancer aggravation due to persistent pain signals with the increased expression of pain-related mediators in sensory neurons of tumor-bearing mice. Tanaka et al., *Mol Brain*, 16, 19, 2023

Loss of p53 drives neuron reprogramming in head and neck cancer, Amit M et al. *Nature*, 578, 449-454, 2020

Early palliative care for patients with metastatic non-small-cell lung cancer. Temel et al., *N Engl J Med*, 363, 733-744, 2010

# Information

インフォメーション

7月末発売!

## JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2025年7月版」

- ◇ 医療用および一般用医薬品の電子添付情報を収録したWindows対応CD-ROM。  
(2025年6月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇ 製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。  
データ出力形式は、タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇ 薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、  
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇ 完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。  
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇ インターネット経由で、最新の電子添付PDFの表示も可能です。  
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)
- ◇ 院内採用医薬品集編集機能を搭載

- ◆ 価格:単回 14,300円(税込)  
年間セット4枚(7月・10月・1月・4月)26,186円(税込)



## JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2025年7月版」

- ◇ 一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報  
(2025年6月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇ 添付文書記載情報及びリスク区分などから一般用医薬品を網羅的に検索。
- ◇ 一般用医薬品データの表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇ 「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。
- ◇ 検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇ インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇ JANコードによる製品直接表示機能も搭載。

- ◆ 価格:3,300円(税込)  
〔年1回発行(次回発行は2026年7月予定)〕



〔お問合せ先〕事務局渉外担当(TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

# Information

インフォメーション

## 医薬品集発刊!

### JAPIC「医療用医薬品集2026」CD-ROM付 9月初旬発刊

#### ◆6月の後発品収載に対応◆

《本書の特長》

- ◇2025年5月の新薬収載、6月の後発品収載分までの医療用医薬品を網羅(約20,000製品)
- ◇医療用医薬品電子添文情報を有効成分(約2,300成分)ごとにまとめて掲載。  
約1,400成分については「構造式」も掲載
- ◇先発品(またはそれに準じると思われる医薬品)と後発品及び局方品が明確に  
区別できるように記載
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ◇医療用医薬品電子添文情報・一般用医薬品添付文書情報・医療用医薬品識別コード情報を収録し、  
最新医療用医薬品電子添文へのリンク機能\*を搭載した検索用CD-ROM(インストール版)を添付  
\*インターネットを経由してJAPICが運営するiyakuSearch掲載の電子添文PDFを表示
- ◇本文2分冊+その他(付録、薬剤識別コード)1冊の3分冊を予定(収納ケース有り)
- ◇更新情報メールの無料提供(要登録)

◆価格:14,300円(税込)・B5判



### JAPIC「一般用医薬品集2026」 9月初旬発刊

《本書の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅(約10,000製品収録)
- ◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
- ◇付録に重篤副作用疾患別対応マニュアル、国内副作用報告の状況、セルフメディケーション  
税制対象品目一覧、リスク区分情報等を収録

◆価格:9,900円(税込)・B5判



### JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2026」8月発刊

《本書の特長》

- ◇識別コードから薬剤の商品名を調べられる一冊
- ◇医療用医薬品集掲載の医薬品のうち電子添文に識別コード・包装コードの記載のある品目を掲載
- ◇掲載項目は識別コード、色・割線、商品名(会社名)、一般名、規格単位、  
薬効からなり、医療用医薬品集本文の掲載ページも記載
- ◇薬剤識別コードの数字順、英字順、マーク順に配列

◆価格:1,100円(税込)・B5判



(お問合せ先)事務局渉外担当(TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

## 日本薬学図書館協議会の 2025年度定時総会及び創立記念式典にて、 iyakuSearchをご紹介いたしました。

創立70周年おめでとうございます。この度日本薬学図書館協議会（薬図協）は創立70周年を迎え、6月6日（金）に定時総会および創立70周年記念事業が開催されました。総会及び記念式典には50名ほどの方々が参加され、記念式典の特別講演では竹内比呂也先生（千葉大学副学長・附属図書館長）がご講演されました。

こちらに開設された展示ブースにて、昨年9月にリニューアルしたiyakuSearch（医薬品情報検索システム）をご紹介いたしました。JAPIC会員である大学であれば、詳細検索（iyakuSearch Plus）のご利用が追加料金なしでご利用いただけるなど、薬学図書館にてiyakuSearchをご利用いただけるようご案内いたしました。



## 令和7年度 学会等 出展について

下記学会に出展いたします。お出かけの際は是非お立ち寄りください。

出展学会・期間・会場	展示内容
<b>第27回日本医薬品情報学会総会・学術大会</b> 7月5日（土）、6日（日） 広島大学霞キャンパス（広島市）	iyakuSearch（医薬品情報検索システム）
<b>第45回医療情報学連合大会</b> 11月12日（水）～15日（土） アクリエひめじ（姫路市）	JAPIC添付文書情報関連データ 医薬品と対応病名検索システム“病名ナビ” iyakuSearch（医薬品情報検索システム）

\*この他の学会にも出展を予定しております。開催内容につきましては変更となる場合がございます。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より - (抜粋)

2025年5月1日~5月31日分のJAPIC Weekly News (No.1002-1005)の記事から抜粋

## ■米FDA

- 米FDA, Q'Apel Medical Inc.の072 Aspiration System (Hippo)の世界的な医療機器のリコールおよび使用中止をClass IIに分類  
<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/fda-classifies-qapel-medical-incs-worldwide-medical-device-recall-and-discontinuation-its-072>
- 心臓ポンプアクセサリの撤去: Abbott, 突然の電源喪失の事例により, HeartMate Mobile Power Unitを撤去  
<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/heart-pump-accessory-removal-abbott-removes-heartmate-mobile-power-unit-due-to-sudden-power>
- 米FDAおよび米CDC, 市販後安全性報告の調査中は, 60歳以上のヒトにおけるIxchiq (Chikungunya Vaccine, Live)の使用を一時中断することを勧告  
<https://www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/safety-availability-biologics/fda-and-cdc-recommend-pause-use-ixchiq-chikungunya-vaccine-live-individuals-60-years-age-and-older>
- 米FDA, 経口アレルギー薬cetirizineまたはlevocetirizine (Zyrtec, Xyzal, およびその他の販売名)の長期使用を中止した後の, まれではあるが重度のそう痒について警告するよう要請—Drug Safety Communication  
<https://www.fda.gov/media/186542/download?attachment>

## ■Health Canada

- Summary Safety Review—Stivarga (regorafenib)—血栓性微小血管症の潜在的リスクの評価  
<https://dhpp.hpfb-dgpsa.ca/review-documents/resource/SSR1746542979258>
- Summary Safety Review— isotretinoin—仙腸骨炎の潜在的リスクの評価  
<https://dhpp.hpfb-dgpsa.ca/review-documents/resource/SSR1739474283557>

## ■EU・EMA

- Referral: finasteride および dutasteride 含有医薬品; finasteride および dutasteride 含有医薬品による自殺念慮のリスクを最小限に抑えるための措置  
<https://www.ema.europa.eu/en/medicines/human/referrals/finasteride-dutasteride-containing-medicinal-products>

## ■英MHRA

- Short-acting beta 2 agonists (SABA) (salbutamol および terbutaline): 喘息における乱用のリスクの再度注意喚起および SABA 処方ガイドラインの変更についての認識について  
[https://assets.publishing.service.gov.uk/media/680a0f63382965132de1aa69/SABA\\_DSU\\_FINAL\\_PDF.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/media/680a0f63382965132de1aa69/SABA_DSU_FINAL_PDF.pdf)
- Kaftrio ▼ (ivacaftor / tezacaftor / elexacaftor): 精神系副作用のリスク  
[https://assets.publishing.service.gov.uk/media/681a1db1fb59a222d4f17334/Kaftrio\\_DSU\\_FINAL\\_v2.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/media/681a1db1fb59a222d4f17334/Kaftrio_DSU_FINAL_v2.pdf)
- thiopurines と妊娠性肝内胆汁うっ滞  
[https://assets.publishing.service.gov.uk/media/6825b71d85c0250741b014a1/DSU\\_Thiopurines\\_and\\_intrahepatic\\_cholestasis\\_of\\_pregnancy\\_-\\_FINAL.pdf](https://assets.publishing.service.gov.uk/media/6825b71d85c0250741b014a1/DSU_Thiopurines_and_intrahepatic_cholestasis_of_pregnancy_-_FINAL.pdf)

## ■豪TGA

- Safety updates: risperidone による小児の投薬過誤の回避  
<https://www.tga.gov.au/news/safety-updates/avoiding-paediatric-dosing-errors-risperidone>
- Medicines Safety Update: RS ウイルスワクチン Arexvy および Abrysvo に関する警告の改訂: 製品情報にギラン・バレー症候群のリスクを追加  
<https://www.tga.gov.au/news/safety-updates/updated-warnings-respiratory-syncytial-virus-vaccines-arexvy-and-abrysvo>

## ■医薬品医療機器総合機構

- カピバセルチブの糖尿病ケトアシドーシス (DKA) に関する注意喚起  
<https://www.pmda.go.jp/files/000275005.pdf>
- GLP-1 受容体作動薬及び GIP/GLP-1 受容体作動薬の適正使用に関するお知らせ  
<https://www.pmda.go.jp/files/000275183.pdf>
- 肥満症治療薬の安全・適正使用に関するステートメント  
<https://www.pmda.go.jp/files/000275251.pdf>

## ■厚生労働省

- 危険ドラッグの成分1物質を新たに指定薬物に指定  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000212707\\_00027.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000212707_00027.html)

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくは JAPIC Weekly News (無料) のサービスをご利用ください (JAPIC ホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC Weekly News サービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈 配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順 〉

書名	著者	出版者	出版年月
British National Formulary No.89 March - September 2025 (BNF89)	Joint Formulary Committee	The Pharmaceutical Press	2025年3月
中華人民共和国薬典 2025年版	国家薬典委員会 編	中国医药科技出版社	2025年3月

## 情報提供一覧

2025年6月1日～6月30日提供

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新頻度
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="https://iyakusearch.japic.or.jp/">https://iyakusearch.japic.or.jp/</a>
1. [一般用医薬品 (経済課コード)] 2025年5月分 (HP定期更新情報掲載)	6月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [JAPIC NEWS] No.494 2025年7月号	6月30日	2. 学会演題情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報]	毎 週	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	5. 日本の新薬	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	月 1 回	6. 学会開催情報	毎 日
4. [JAPIC-Q 医療機器情報サービス]	月 2 回	7. 医薬品類似名称検索	随 時
5. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)]	毎 日	8. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
6. [JAPIC Weekly News]	毎 週	9. ブルック連携データベース	随 時
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)]	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="https://iyakusearch.japic.or.jp/">https://iyakusearch.japic.or.jp/</a>
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Where	随 時
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	<a href="https://jdream3.com/">https://jdream3.com/</a>
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	<a href="https://telecom.nikkei.co.jp/">https://telecom.nikkei.co.jp/</a>



赤ジャピ50年の伝統を守り  
薬剤師を中心とした  
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2025年9月  
発刊予定



本書の特長

- ◆2025年6月後発品まで収載
- ◆約50年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新で正確な電子添文情報をお届けします!
- ◆「薬剤識別コード一覧」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)
- ◆CD-ROM付
- ◆分冊にて製作(ケース入り)

Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新電子添文画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

14,300円(税込) B5判 約4,700頁(本文)

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行  
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データおよび病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC(TEL0120-181-276)まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

ぜらにうむ・しるぎあていくむ

学名: Geranium sylvaticum L. 英名: Wood cranesbill. ドイツ語名: Der Wald-Storchschnabel. ふろそう科ふろそう属。多年性草本。原産地はヨーロッパから北部トルコ。開花時期は、6月~8月ごろ。青色からすみれ色などの花を咲かせる。Linarin(アセチルコリンエステラーゼ阻害活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより  
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。